

南海地震に備える

香川県防災局 乃田 俊信

〈24〉

総まとめ

【地震は避けられないが、震災は避けられる！】

これは、関東大震災を予言した、東京帝国大学の今村明恒教授の言葉です。

人の力では、地震のメカニズムを変えたり、地震の発生を防ぐことはできませんが、科学技術の進歩は、地震による被害(他の天災による被害も同じ)を避ける可能性を、私たちに与えてくれました。しかし、その可能性を生かすのも生かさないので、私たちしだいです。

【被害は半減できる】

これまでお話してきましたように、近い将来、南海地震は必ず起きます。

しかし、

① 災害の実態を正しく知り、

② 防災対策の重要性を認識(防災意識を高揚)し、

③ 備えを実行(自助・共助・公助の協働・連携)する

ことにより、被害を半減することができ、特に、最も大事な人の命を救うことが出来るのです。

【今日から備えましょう】

昨年7月号でお話したように、阪神・淡路大震災で被害を大きくした最大の原因として、「防災意識が低く、防災対策がほとんどなされていなかった」ことが

挙げられています。

災害が起こった後、「あの時あれさえやっておけば、死なずにすんだのに…」と後悔しないように、そのために「今、何をしなければならぬか」を真剣に考えたいものです。

一方、「防災対策」というと「何か難しいこと」のようなイメージをもたれる方もおられるかもしれませんが、決してそうではありません。私は、「防災対策は、常識十(プラス)一工夫」と思っています。

災害が発生したときの状況をイメージアップさえできれば、今までの経験と常識でほとんど90点以上の「備え」ができます。あとはマニュアルなどでチェックすれば完璧です。

安全・安心は、備えを実行してはじめて得られるものです。

今日から、そしてできることから備えましょう。私たちの、そして私たちの子孫の安全・安心のために……。

【終わりに】

2年間にわたり、「南海地震に備える」と題して執筆してまいりましたが、いよいよ今回で筆をおくこととなりました。

この間、「南海地震などによる、県民の方々の犠牲者が一人も出ないように」との思いを込めて書いてまいりましたが、皆様方にとって、「備えを実行しよう」という気持ちになっただけで済みますか？

繰り返しますが、安全・安心は、備えを実行してはじめて得られるものです。拙稿が皆様方の安全・安心の一助となれば、私にとつて、この上ない喜びであります。

長い間のご愛読、まことにありがとうございます。

(完)



1946(昭和21)年12月の南海地震で、倒壊した家屋の片付けをする高松市西浜町(当時)の人たち